

令和2年9月1日に思う

「天気予報がない時代があった」ことを皆さんはご存知ですか？私は驚きです。

戦時中、天気予報を含む気象観測情報は、重要な軍事機密として公表を禁じられていたようです。あらためて戦争の悲惨さを痛感し、「命も守る」とは何かを考えさせられます。私たちは、この過ちを繰り返さないことを誓いましょう。

さて、本日9月1日は「防災の日」です。例年であれば9月上旬に、災害時を想定した避難訓練や、防災に関する研修を行う「川上村防災訓練」を実施するところですが、新型コロナウイルスの脅威が未だに収束していないことを鑑み、今年は、昨年度整備した防災行政情報放送やケーブルテレビ自治体放送、行政情報配信アプリを活用した「情報伝達訓練」を行うことにしました。これからの時代は、“想定外”があることを見込んで、「柔軟に構える（準備する）こと」が求められるのでしょう。まさに新しい生活様式です。

私の手元に、消防庁が発行した「市町村長による危機管理の要諦」なるものがあります。首長の役割の大きさと心得がわんさと盛りこまれています。そして、その中に「訓練でできないことは、本番ではできない」という訓練の大切さを教える一文があります。まさにそのとおりです。今年もまちがいなく台風が来るでしょう。あらためて家のまわりの点検と心の備えが必要です。

今回の情報伝達訓練で、何らかの“気付き”があると思います。住民の皆さんには、ぜひそれを今後の防災活動に活かしていただきたく思います。幸い、「天気予報」も「台風情報」もしっかり教えてもらえる時代にあるのですから。